

ほつことな

ひととき

な〜んにも

考えない時間。

ボーイスカウト(カブスカウト隊)坐禅に挑戦！
さて、なにを感じたかな？



笑顔した坐禅に挑戦するカブスカウト隊の皆さん。

「時間がぜんぜんたたない！
坐禅の極意を体得!?」

降る雨が少し肌寒く感じる六月二十四日、カブスカウトの皆さん、大人も含めて三十名が、臨南寺で坐禅に挑戦しました。般若心経を唱え、鐘を合図に約五分間の坐禅です。子どもたちには、わずか五分といえども長く感じたのではないかと、一時間がぜんぜんたたないかんじがしたそうです。「カブの活動でこんなシーンと静かなのは初めて」というくらい、まったく時間が止まったように感じられたのかもしれない。

時間は不思議なもので、同じ長さで流れているのに長く感じたり、短く感じたりします。曹洞宗の開祖、道元は只管打坐、無心にただひたすらに坐ることが坐禅の真髄であると述べています。時間がたたない、止まったように感じることは、この無心に近い状態に達したからでしょうか。彼らは来年もぜひ参加したいと予約しています。臨南寺では、坐禅会のほか、様々な研修会や懇親会などを行っています。どうぞお気軽にご利用ください。

禅問答

禅 Q&A

Q 何も考えないって、どうしたらできますか？

A 考えずにやれることに、意識を集中して、みよう。

人は常にいろいろなことを思い考えています。夕食は何を作るのか、いやな上司とうつきあおうかというたら、備前のかき、何も考えずにいよいよと思えば思えば、次から次へと心に雑念が浮かんでいきます。何も考えないぞと自分言ひ聞かせても、考えないどころか、考えを浮かせているのですから、考えるという行為は、まことに始末が悪いものです。

「正法眼蔵」に「不思議如何思、これ非思量」とあり、考えることができないことを考えようとするものか、考えることを超えることだ」というふうに解釈されています。何かに集中することは「考える」ことを超える「ひとの方法」です。たとえ坐禅の場合には、呼吸や吸気の息を数えることによる集中、数息観があげられます。息を数えることに意識を集中させ、そのうち、数えるともなく数えるような状態になると、たまたもの考えという「意識を持った我」がなくなる、その感覚をぜひ体得してください。

臨南寺行事予定

- (平成十二年)
 - マトリ合同法要「紅葉祭」十月十日(日)午後時、
 - 親子坐禅会 十月十六日(日)午後時、
 - 定員〇組(要予約) 無料
 - (平成十四年)
 - 弁天様祈禱会 十月十五日(月)午前〇〜十二時
- ※坐禅の後は来年度の干支の馬の絵を描きます。



おしよ回マトリ
落慶法要

七月(日)営まれる
臨南寺の境内の一角に建立されたおしよ回マトリ。都立で新たにお墓をつくるのが難しくなった現代に対応した合葬墓で、個々の霊魂が集まる一つの墳墓を形づけています。

落慶法要は、大勢の賓客が訪れる中、献花により行われ、維持寺の賓士を始め、数々の祝賀が寄せられました。築聖殿で開かれた祝賀会では、古く古舞踊師が行われ、珍しい舞踊鑑賞に会場は盛り上がりを見せました。マトリ内部を見学した参加者の方は「他の寺院では見られない草庵の形態。先駆者の存在にこそはしい」と新たな意気の今後に期待を寄せています。

一個半個の説得

谷松山 臨南寺住職
渡邊 剛毅

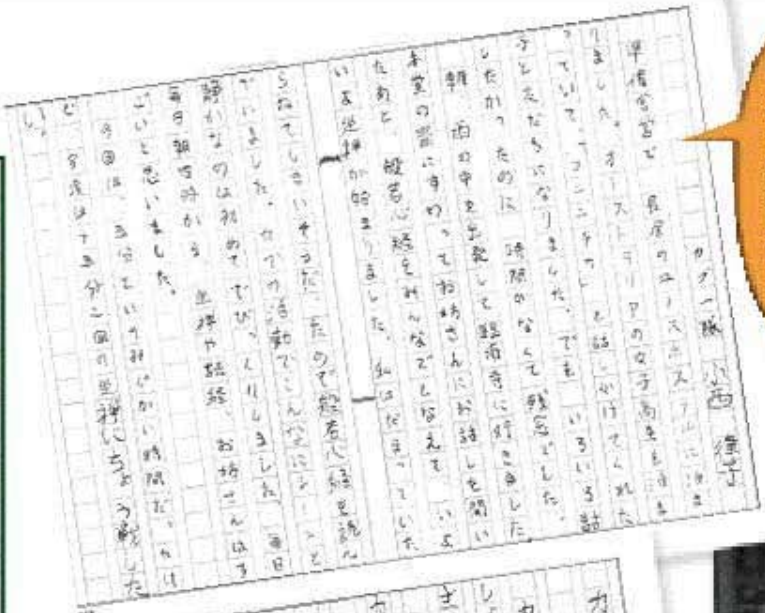
十三歳で仏門に入られた道元禪師は、比叡山で修行されました。しかし、当時の仏教界に失望された真の脚を求めて、中国に渡られます。天童山での修行のち帰国され、興隆寺を作られます。興隆寺では、日本最初の坐禅堂を作り、「正法眼蔵」の執筆をはじめられました。

しかし、その後が問題です。ことを成し遂げた人間が、静かなところへ逃げていくような気持を持つものでしょうか。ところが道元禪師は、すべてを捨ててどんとん奥へ入ってしまい、水平等寺といふとんでもない辺鄙なところへ行かれました。



を知らしめたい。そんな思いから、一個半個の本當のお弟子を作ること、そして真の仏教を知らしめることに苦心されました。

水平等寺に庵を結び、若い者と一、それも多くなると、恐らく二人か三人しかいなかったのではなからうか。一禅に生活しながら、一生懸命修行された。普通の人間なら、賑やかな方へ賑やかな方へ向かうところでありましょう。それをあえて、苦勞しながら山へ山へと分け入って、隠れるように修行されました。そこに、並みの人間にはない、道元禪師の人間としての深さと真の仏教



参加されたお弟子さんからお便りをいただきました。紙面をかりて紹介させていただきます。



方丈禅談





長居の弁天さん

万灯会

まんとうえ

願いごとを献灯にたくして。

閑静な境内が明かりと人で賑わった夏の夜。



写真：かきおの

去る八月十一日(日)、臨南寺で初めての「弁天さん万灯会」がとり行われました。知恵と音楽と財物を司る弁天さん(弁財天)は、もともと「水」の神様であることから苦勞を「水に流す」とも言われています。当日、会場では弁天さんから福を授かるうと、千人近い皆様がご来場。それぞれの願いごとを書いた献灯に、思いを託されています。

また、お釈迦さまの故郷であるインド文化を知っていただくために開催された、仏さまに触れる夕べでは、両家の東野健二さん自らが楽しく見せて、聞かせる「インド紙芝居」が来場された方達の興味を集めていたほか、激動のカンボジア体験を活かして日本で活躍



▲カンボジア舞踊の他にも、在日カンボジア人子女の歌舞演奏や様々なことで活躍する久寿チナレットさん。

する舞姫、久寿チナレットさん達による力強く華麗な「カンボジア舞踊」などの催しも行われ、「万灯会」に華を添えていただきました。

多くの皆様がご来場されたこと、がき水無料サービスでは、充分用意したつもりのカップが足りなくなったり、駐車場がいっぱいになってお待たせしてしまったりと、初めての試みで至らない点も多かったことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

なお、駐車場につきましては、次回は充分なスペースをご用意したいと考えております。

いつもは閑静な佇まいを見せる臨南寺境内も、この日は幻想的な献灯の光に彩られ、ライトアップされた「白蛇の宿る神木」と共に多くの人々を魅了。楽しさいっぱいの夜店を見て歩くご家族で賑わい、思い出深い夏の夜となりました。

お子様たちも坐禅にチャレンジ!!

夏休み

親子坐禅会

八月二十六日、臨南寺本堂で恒例の「夏休み・親子坐禅会」が開かれました。親子坐禅会を始めて、はや二年。最近ではようやく参加される方も定着してきたようです。とはいえ、初回から参加されていても、ただ座るだけの坐禅がどうにも退屈らしく、「エッ、また坐禅するの……」とちよつと不満顔のお子様も。それでも我慢して、ジツと座っているのは、坐禅の後の、身体全体を使って絵を描く「ボディペンティング」が楽しみだからだとか。我慢しながらにしろ、お子様達もしつかりと坐禅に取り組んで、楽しい夏休みの思い出を作っていたようです。これからも頑張ってくださいね。

いずれも事前のお申込みが必要です。

坐禅会

毎月10日

時間／午前10時～午後1時

定員／30名

献香料(お志)

写経会

毎月10日

時間／午前9時30分～午後4時30分

定員／30名

写経料(納経料含む)／2,000円

書道・絵手紙教室

講師 岩木千舟先生

●書道教室

第二木曜日(午前10時)

第四木曜日(午後1時)

定員／20名 受講料／2,500円(2回)

●絵手紙教室

第二木曜日(午後1時)

第四木曜日(午前10時)

定員／20名 受講料／2,500円(2回)

※十月八・二十一日の書道・絵手紙教室は「年賀状講習会」を行います。

ふるってご参加ください。

あなたが「ほ〜っと」
する時はどんな時?
おたより募集中!

音楽を聴いている時、コーヒーを飲んでいる時、トイレに入っている時……あなたがほ〜っとする時はどんな時ですか?
編集室まで、お気軽にお寄せください。たくさんのお便り、お待ちしております。

Ho~To time

ほ〜っと

「ほ〜っと」第4号

平成13年11月

編集・発行 榎園林 (ほ〜っと)編集部

(ゆふがのん)

〒548-0034 大阪市東区住吉区長慶寺2-22

TEL 0120-711-493

TEL 06-6098-1001 FAX 06-6097-3330

Eメール ryougarn@shundens.co.jp

ホームページ http://www.shundens.co.jp

「ほ〜っと」も、おかげさまで誕生一年になりました。編集室も「ほ〜っと」一歩、その扉をばらばら「ほ〜っと」コーヒーが美味しい季節ですね。皆様が「ほ〜っと」コーヒー片手に「ほ〜っと」で送るよう紙面作りをお待ちしておりますので、これからもよくお読みください。



紙芝居の一場面

◆神話を中心に、インドの各話や伝説を採った自作自演の「インド紙芝居」を執筆中の画家、東野健二さん。